



平成 28 年度 オリンピック・パラリンピック教育事業
推進校実施報告書

- 1 学校名 : 山鹿市立山鹿中学校
- 2 実施日時 : 2017 (平成 29) 年 2 月 14 日 (火)
- 3 対象 : 1~2 年生 400 名

4 派遣パラリンピアン : 花岡伸和さん (車いすマラソン アテネ・ロンドンパラリンピック出場)

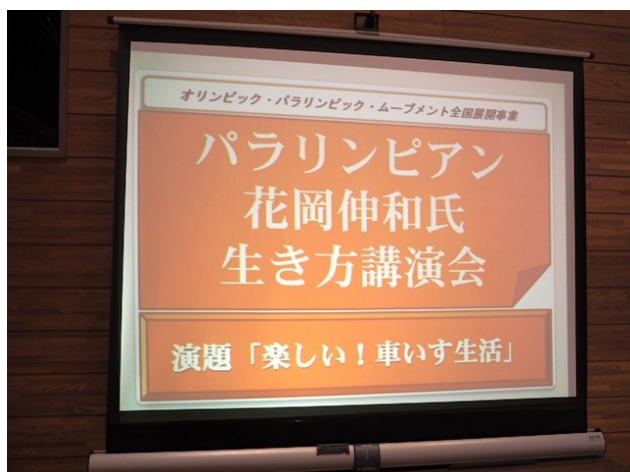
5 授業内容 : 講演

2017 (平成 29) 年 2 月 13 日に山鹿市立山鹿中学校において、車いすマラソン選手として 2004 (平成 16) 年のアテネパラリンピックで 6 位に入賞、2012 (平成 24) 年のロンドンパラリンピックで 5 位に入賞されました花岡伸和さんによる講演が行われました。生徒たちは事前学習として、パラリンピックの語源や、車いすスポーツである車いすマラソンやハンドサイクリングなどについて学んでいました。

講演ではまず、花岡さんが高校 3 年生のときにバイク事故で脊椎損傷となり、車いす生活になったときのことを話されました。そして、病院に置いてあった資料で車いすスポーツのことを知り、その中で陸上競技が“一番かっこいい”と感じたのがきっかけで車いすマラソンに取り組むようになったということでした。初めて出場したパラリンピック (2004 年アテネ大会) では日本人最高の 6 位に入賞し、その後も順調に日本の車いすマラソン界を牽引していく存在になっていったそうですが、2008 (平成 20) 年の北京大会で日本代表から落選してしまったときは「もうあきらめようかと思った」と語られていました。しかし、「ここで逃げてしまえば、あのときの事故とまた同じようになってしまうのではないかと自分自身を奮い立たせ、もう一度パラリンピックにチャレンジすることを決意されたということでした。そして、2012 (平成 24) 年のロンドンパラリンピックの出場権をかけた戦いが当時の VTR で紹介され、花岡さんがトップでゴールした瞬間には会場から歓声が上がり、拍手が送られていました。花岡さんはこれらの経験を踏まえながら自己肯定感について取りあげられ、「事故後初めて自分でごはんを食べたときも、初めてパラリンピックに出場したときも、そしてロンドンパラリンピックの出場権を獲得できたときも、自己肯定感が高められ、そして今の自分がいる」と述べられ、このような積み重ねが、また次の目標に向かって進んでいく原動力になっていくことから、「(生徒の) みなさんも、ぜひ自己肯定感を高められるように頑張ってください」と生徒たちにメッセージを送られていました。

さらに、パラリンピックを紹介する映像も流され、その映像にはパラアスリートだけではなく、さまざまな障がい者 (例えば、足の指でスティックを持ってドラムを叩くミュージシャンから、足の指で車や小型飛行機を操作する一般の人々まで) も登場していたことから、その映像を通して生徒たちは障がいを持つ人々の可能性についても学びました。

6 授業の様子



講演のタイトル「楽しい！車いす生活」



笑顔で生徒たちに語りかける花岡さん



花岡さんに質問する生徒



生徒から御礼の挨拶



生徒たちと記念撮影